

2024年度 ちば産学官連携プラットフォーム事業 点検・評価報告書

◆教育活動連携事業部会（幹事校：淑徳大学）

事業計画名	単位互換の推進
活動指標	千葉市内の高等教育機関の「教育の魅力」を高める。
取組の概要	<p>目標： プラットフォームで共同開発する授業科目の実施（2025年度に計3科目）</p> <p>ちば産学官連携プラットフォーム参画校及び市内の国公立大学の学生が、地域の特性を活かした授業プログラムを通じて、共に学び、交流しながら、相互に学修成果を高めることができるような工夫を行うことで、千葉市内の高等教育機関の「教育の魅力」を高める。</p> <p>具体的内容： 単位互換推奨科目の設定と共同授業科目の開発</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 単位互換推奨科目に関する共通シラバスを作成し、WEB上で公開する。 ② 基盤教育・普遍教育の単位互換制度運用に向けた協議を行う。 ③ フィールドワーク等での共同プログラムを開発するとともに、その学修成果をクラウドシステムで共有できる仕組みを検討する。 ④ 単位互換のためのプログラム開発や、共同利用できる施設・設備も検討する。 ⑤ 単位互換を利用して他大学の単位を履修する際、CAP制に関する課題について部会で検討する。 <p>年次計画： 2022年度 単位互換推奨科目：45科目、共同授業科目：1科目 2023年度 単位互換推奨科目：45科目、共同授業科目：2科目 2024年度 単位互換推奨科目：50科目、共同授業科目：2科目 2025年度 単位互換推奨科目：50科目、共同授業科目：3科目</p>
進捗状況	<ol style="list-style-type: none"> ① 122科目の単位互換推奨科目と共通シラバスを作成して、WEB上で公開した。 ② 基盤教育・普遍教育の単位互換制度運用に向けた協議は検討中である。 ③ 2023年度に開講を断念した共同開発科目について、2024年度は淑徳大学の科目をベースに「ボランティア・市民活動論B」を開講した。 ④ プラットフォームの単位互換に結び付けた施設・設備の利用やプログラム開発は検討中である。 ⑤ 単位互換を利用して他大学の単位を履修する際、CAP 制に関する課題については検討中である。
点検・評価	<p>取り組みの中核である、単位互換推奨科目と共通シラバスの作成については、例年通り、参画校の連携で進められており、昨年度実現できなかった共同開発科目の開講も無事達成がなされている。</p> <p>「基盤教育・普遍教育の単位互換制度運用に向けた協議」「学修成果をクラウドシステムで共有できる仕組みを検討」「単位互換のためのプログラム開発、共同利用できる施設・設備も検討」、「単位互換を利用して他大学の単位を履修する際、CAP制に関する課題について検討」については実現がなされていない。2019年度に作成がなされた中長期計画と現在のプラットフォーム参画校を取り巻く環境に大きな変化が生じており、現行の事業を充実させながら目標設定の見直しが必要である。</p>

事業計画名	共同IR体制の構築と推進
活動指標	「教育の魅力」の向上
取組の概要	<p>目標： 千葉市内の高等教育の課題を明らかにするために、共同IR(学生調査等)を実施する。調査結果に基づき、ちば産学官連携プラットフォーム参画校が共同し、連携しながら、千葉市内の高等教育の課題を解決することを目指す。</p> <p>具体的内容： ちば産学官連携プラットフォーム参画校のIR担当者による意見交換、各校に共通項目の調査を行うことで、共同IR体制の構築を行う。また、毎年度共同調査を実施し、結果を経年観測する。共同調査の結果は、ちば産学官連携プラットフォーム運営委員会に報告し、プラットフォーム事業計画の実施、評価及び計画策定に活用する。</p> <p>年次計画： 2022 年度 ①学生意識調査の実施、②卒業時の学生満足度調査の実施 2023 年度 ①学生意識調査の実施、②卒業時の学生満足度調査の実施 2024 年度 ①学生意識調査の実施、②卒業時の学生満足度調査の実施 2025 年度 ①学生意識調査の実施、②卒業時の学生満足度調査の実施</p>
進捗状況	<p>2025年1月～3月の期間に、ちば産学官連携プラットフォーム参画校の4年生を対象に、「卒業生の卒業後の就職と居住地」「卒業時の学生満足度」に関する学生意識実態を実施した。設問は以下の内容である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①在籍大学の満足度について ②現在の住まい ③希望する卒業後の居住地 ④就職先候補に千葉市内の企業はあるか ⑤就職先を選んだ際に重視したこと、参考にしたこと ⑥千葉市が住む場所として選ばれるために改善が必要だと思うこと 等 <p>2024年度は「学生意識調査の実施」「卒業時の学生満足度調査」を同時に実施しており、2025年4月現在、内容を集計中である。</p>
点検・評価	<p>年次計画にある、「①学生意識調査の実施」「②卒業時の学生満足度調査の実施」は予定通り実施できており、事務負担軽減のため同時期に行えるように調整を行った。アンケート調査は毎年ルーティン化できているので、今後は調査結果の有効活用を進めていく必要がある。結果を産学官で共有したうえで、教育改善に向けた分析と検討を行っていく。</p>

事業計画名	産学官・地域連携教育の検討
活動指標	千葉市内の高等教育機関の「教育の魅力」を高める。
取組の概要	<p>目標： 産学官連携やアカデミックリンク活動を通じた学修機会の提供</p> <p>ちば産学官連携プラットフォーム参画校及び市内の国公立大学の学生が、産学連携事業やアカデミックリンクの活動を通じて、共に学び、交流しながら、相互に学修成果を高めることができるような工夫を行うことで、千葉市内の高等教育機関の「教育の魅力」を高める。</p> <p>具体的内容： 産学官連携事業やアカデミックリンク活動の開発と実施(2025年度に計8事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「千葉市こども若者市役所」の取り組みを通じて、高大連携や学生の交流を進めるとともに、大学・短大の施設を地域の拠点としながら、地域や産学官連携活動を推進する。 ②社会人のセカンドキャリア形成支援のためのプログラムを開講する。 ③産学官地域連携教育を推進するための「FD・SD研修会」を開催する。

	<p>④千葉公園エリアマネジメント検討委員を通じて、ちば産学官連携プラットフォームに参加する大学・短期大学の学生の交流機会として、交流イベントをはじめ、研究・活動報告会を開催する。</p> <p>⑤IoT、情報技術等を活用した学修を共同で行う仕組みを構築できるよう、オンライン授業・遠授業サポートWGを通じて、産業界と協議を行い、実施する。</p> <p>⑥フードバンクちばへ、講演、グループワーク、ボランティア等の体験学習を通じた、プログラムのコーディネートに依頼して、SDGs学習を実施する。</p> <p>⑦千葉市と連携して、「千葉開府900年に向けて」に関連した取り組みを行う。</p> <p>年次計画：2022年度:6事業、2023年度:7事業、2024年度:7事業、2025年度:8事業</p>
進捗状況	<p>①「千葉市こども若者市役所(CCFC)」の新たな取り組みである駄菓子屋カフェへの協力を通じて、大学生と地域の子供たちとの交流活動を進めた。</p> <p>②社会人のセカンドキャリア形成支援のためのwebプログラムは2024年度より生涯学習部会へ事業の移管を行った。</p> <p>③産学官地域連携教育を推進するための「FD・SD研修会」を、7回開催した。</p> <p>④フードバンクちばより、年4回の大学生への食料支援をいただき、連携を深めた。</p> <p>⑤プラットフォーム事務局より、千葉開府900年記念メンバーシップ登録制度への申請を行った。具体的な取り組みについては検討中である。</p> <p>⑥IoT、情報技術等を活用した学修、プラットフォームに参加する大学・短期大学の学生の交流機会として、交流イベントをはじめ、研究・活動報告会を開催については、産業界との協議が進んでおらず、実施できていない。</p>
点検・評価	<p>2024年度は扱っている取り組みが多い教育部会の事業の整理を進め、社会人のセカンドキャリア形成支援のためのwebプログラムを生涯学習部会への移管を行った。既存の事業は予定通り進められているが、長らくコロナ禍で実施できなかった「IoT、情報技術等を活用した学修を共同で行う仕組みの構築」「学生交流会の実施」についても、事務局、生涯学習部会、地域支援部会等とも連携しながら、具体的な取り組みについて検討を進める必要がある。</p> <p>単位互換の推進の事業計画と同様に、2019年度に作成がなされた中長期計画と現在のプラットフォーム参画校を取り巻く環境に大きな変化が生じており、現行の事業を充実させながら目標設定の見直しが必要である。</p>

◆学生募集連携事業部会（幹事校：千葉明德短期大学）

事業計画名	PF参加大学・短期大学合同進学説明会
活動指標	「学生募集力」の向上
取組の概要	①「敬愛学園高等学校」の校内進学ガイダンスにおいて実施。（3月予定） ②業者主催の「幕張メッセ会場」（千葉市）において実施。（5月予定） ③「千葉黎明高等学校」の校内進学ガイダンスにおいて実施。（11月予定） プラットフォームに参加している千葉市内の大学・短大が参加。各校のブースを設置し、個別相談に対応する。参加者は、高校生・保護者等を想定。特に千葉市内の大学・短期大学の魅力を知ってもらい、学生募集力の向上につなげていく。
進捗状況	・2024年4月23日：ちば産学官連携プラットフォームとして会場ガイダンスに参加（於：幕張メッセ）。 ・2024年5月2日：桜林高等学校の進学ガイダンスを実施（於：TKPガーデンシティ千葉）。 ・2024年11月20日：千葉黎明高等学校での進学ガイダンスを実施。 ・2025年3月14日：敬愛学園高等学校での進学ガイダンスを実施。
点検・評価	計画通り実施できた。

事業計画名	PF参加大学・短期大学合同高校訪問
活動指標	「学生募集力」の向上
取組の概要	学生募集連携事業部会の担当者を中心に千葉市内の高校において共同での高校訪問を実施。各高校とプラットフォーム各大学・短大とのさらなる高大連携や教育政策の促進について意見交換を行うことを目的に実施する。新規訪問先獲得も学生募集部会を中心に依頼を続けていく。
進捗状況	・2024年11月8日：明聖高校への合同高校訪問を実施。7大学・短期大学が参加 ・2024年11月26日：クラーク記念国際高校への合同高校訪問を実施。6大学・短期大学が参加 ・2025年2月12日：千葉聖心高校への合同高校訪問を実施。7大学・短期大学が参加。 【内容】 第1部：各大学・短期大学から学校案内等 ・「学校案内」「入学試験要項」を配布し、各学校の入試情報やオープンキャンパス情報の共有。 第2部：各高校から現況報告 第3部：各高校進路指導部から各大学・短期大学へ質問 第4部：各大学・短期大学から各高校進路指導部へ質問 ※千葉聖心高校の合同高校訪問では、第1～4部後、各高校に分かれてのガイダンスを実施。
点検・評価	今年度は通信制の高校を新規開拓したため、昨年度より増える結果となった。 次年度は学生募集環境がさらに厳しくなることが予想されるため、実施済である高校はもちろんのこと、さらに新規開拓し千葉市内の別の高校へも規模を拡大し、学生募集力を高めることを目指していく。また、意見交換のみにならず、今年度千葉聖心高校で実施した、高校訪問後に高校生と実際に接することができるガイダンスなども今後実施していけるとより各大学のことを知ってもらえる機会となる。

事業計画名	PF参加大学・短期大学合同オープンキャンパス
活動指標	「学生募集力」の向上
取組の概要	学生募集連携事業部会の担当者を中心に千葉市内の高校において共同での高校訪問を実施。各高校とプラットフォーム各大学・短大とのさらなる高大連携や教育政策の促進について意見交換を行うことを目的に実施する。新規訪問先獲得も学生募集部会を中心に依頼を続けていく。
進捗状況	2025年3月27日に、ZOOMにより「いろんな大学・短期大学を知ろう！ちば産学官連携プラットフォーム合同オープンキャンパス」を実施。各学校の学校説明を中心として開催。
点検・評価	今年度はプラットフォーム合同オープンキャンパスをオンラインで実施した。昨年度は会場での実施だったが、会場校の負担などもあり、オンラインにしたことでの各大学の負担は軽減された。しかし、動員数を増やすことは前年度同様課題である。企画の時期を早め、告知期間を増やす等改善が必要。

事業計画名	外国人留学生対象合同学校説明会
活動指標	「学生募集力」の向上
取組の概要	ちば産学官連携プラットフォームに参画する大学・短期大学の魅力を発信すると共に、より高い向学心を持つ外国人留学生の獲得に向け、協働して募集に取り組む。2024年度はZoomにて実施。
進捗状況	2025年3月27日に、オンラインによる「外国人留学生対象ZOOM合同学校説明会」を実施。各大学の留学生受入れ状況や入試状況などを中心に説明した。
点検・評価	留学生対象オンライン合同学校説明会については、今年度は時期を昨年度の9月から3月に変更。しかし、動員数を増やすことができず、次年度においては時期の見直しと広報の仕方を検討しなければならない。

◆就職支援連携事業部会（幹事校：神田外語大学）

事業計画名	「ちば仕事研究塾2024(県内大学生対象 オープンカンパニーフェスタ)」
活動指標	千葉市内・県内に所在する「地元企業への就職率」向上
取組の概要	2024年5月下旬・6月上旬に実施予定。千葉県経営者協会、千葉県中小企業家同友会等と共同での実施。千葉市内・県内の企業20～30社を招聘し、ちば産学官連携プラットフォーム加盟校の大学の大学1～3年生を主な対象に2024年7月から9月に企業が予定している大学生対象の短期間(1～5日未満)のオープンカンパニーのイベントの合同説明会を実施する。形式は対面を前提とするが状況によってはオンラインでの開催とする。会場は加盟校の教室等での開催を予定。
進捗状況	2024年6月5・6日に「ちば仕事研究塾2024 オープンカンパニーフェスタ」を実施。参企業は当初の計画より削減し7社(千葉信用金庫、シーデーシー情報システム、イシド、イオンリテール、千葉興業銀行、千葉薬品、ヒロハマ)とした。 5日は4社、6日は3社と別れ、各日30分の説明会を2回実施。参加者は延べ45名であった。
点検・評価	就職支援連携事業部会の中心的な事業である地元企業への就職率向上を目的としたイベントであり、企業側の参加意欲は高かったが、6月の実施であったため、4年生をメインに学生の参加を促すことが思った程は出来なかった。今後は、実施時期と学生のニーズのマッチ度が高くないことから、大幅な概要の修正が必要である。

事業計画名	「ちば仕事研究塾2024(公務員合同業務説明会)」
活動指標	千葉市内・県内に所在する「地元企業への就職率」の向上
取組の概要	2024年8月に、公務員試験研究所と就職支援連携事業部会の共催で実施予定。 千葉県内の地方自治体及び千葉県警察等への就職を希望する公務員希望者を対象に「公務員合同業務説明会」を実施。対象は千葉県内の大学生に広く周知を行っていく。
進捗状況	2024年8月30日に「公務員合同業務説明会」を神田外語大学にて実施した。 当日は、人事院、外務省、財務省税関、文部科学省、総務省、出入国在留管理庁、千葉地方裁判所、東京都、特別区、千葉県、千葉市、市川市、松戸市、流山市、柏市、習志野市、我孫子市、船橋市、東金市、千葉県警(警察行政)、国立大学法人などの団体が参加し、約150名の学生が参加した。
点検・評価	就職支援連携事業部会の中心的な事業である「地元企業への就職率向上」の目的の中でも、千葉市を中心とした公務員への就職を考える学生への非常に効果的な説明会となった。次年度に向けて、大きな課題は無いものと考えている。

事業計画名	「ちば仕事研究塾2024(留学生向け企業説明会)」
活動指標	千葉市内・県内に所在する「地元企業への就職率」向上
取組の概要	千葉県内の大学・専門学校・日本語学校等で学ぶ外国人留学生を対象とした千葉県内の企業で外国人の積極採用を行う企業による合同会社説明会。10～20社程度の規模での実施を行う。主催は就職支援連携事業部会の主催かJETRO、千葉県大学就職指導会との共催を検討。2024年6月～7月の実施を予定する。
進捗状況	実施を見送った。

点検・評価	準備期間の少なさや準備の遅れから、実施にこぎつけなかった。 対象となる企業、学生が多くは無く、次年度の実施の予定はない。
-------	---

事業計画名	ちば仕事研究塾2024(県内企業によるオンライン企業研究セミナー)
活動指標	千葉市内・県内に所在する「地元企業への就職率」向上
取組の概要	2024年8月から9月実施予定。千葉市、千葉商工会議所、千葉県経営者協会、千葉県中小企業家同友会等と共同での実施。千葉市内・県内の3社前後の企業と合同でちば産学官連携プラットフォーム加盟校の大学の学生(1～4年生)を対象に業界研究・企業研究・職種研究等と目的としたセミナー「ちば仕事研究塾2024」を実施する。
進捗状況	2024年9月5日午後に、オンラインにて実施。 千葉県内に本社を有する、株式会社Liberaware、株式会社NIPPONIA SAWARA、公益財団法人航空科学博物館の3社が参加。3社の事業内容の説明の他、12月に行うビジネスコンテスト「千葉限定キャリアインカレ2024」の各社の提案テーマについて説明を行った。参加学生は70名、その他プラットフォームの各大学の教職員も参加。
点検・評価	「千葉限定キャリアインカレ」の主催者(千葉県インターンシップ推進委員会)による招聘企業を前提に企画されており、今後、参加企業に千葉市の企業がある保証がないため、次年度以降、実施の有無も含め検討の必要がある。

事業計画名	「ちば仕事研究塾2024(県内企業によるオンライン企業研究セミナー)」
活動指標	千葉市内・県内に所在する「地元企業への就職率」向上
取組の概要	2025年3月に実施予定。千葉県大学就職指導会との共催の形式で実施。 就職支援連携事業部会加盟大学は、同時に千葉県27大学で構成される千葉県大学就職指導会に加盟しており、同団体の主催する「合同企業説明会」(2025年3月幕張メッセ開催)に広報及び職員派遣という形で協力を行う。
進捗状況	主催者の変更等があり、今年度については共催としての参加ではなく、協力という形での参加となった。
点検・評価	開催規模が拡大され、就職支援連携事業部会の中心的な事業である地元企業への就職率向上を目的としたイベントとは言い切れないような一面が出て来ているため、今後については実施に協力するかも含め検討の必要がある。

◆生涯学習連携事業部会（幹事校：敬愛大学）

事業計画名	「ちば学」リレー講座
活動指標	「他世代の学び」の機会の提供 共同で運営する社会人向け講座(ちば学)を開催する。
取組の概要	CPF各参加校から教職員の派遣を受け、千葉(市)に関する様々な分野の講座をリレー講座として市民に提供する。講座数としては最大12講座程度(月1回程度、土曜日午後)を想定。 (会場) 敬愛大学生涯学習センターを会場とするが、他大学キャンパス及び千葉市生涯学習センター、千葉商工会議所での開催も検討する。 (講師) 各校教職員のほか、千葉市および千葉商工会議所からの招聘も推進。
進捗状況	年間で12回の「ちば学リレー講座」を企画・実施した。 全講座を対面とオンデマンドで開講し、受講者数はのべ249名(前年度比+92名)と大幅に増加した。受講者の反応は良好である。包括連携協定を締結する千葉市からも引き続き講師を招くとともに、千葉市生涯学習センターとの共催も継続させることができた。
点検・評価	本講座はまる6年間の実績を重ね、市民の学びの意欲をより促進する内容を提供できるようになった。参画校の相互協力が欠かせない取り組みだが、テーマによっては市民の反応がよいもの(例えば高齢者の問題に関するもの)とそうでないもの(例えば幼児教育に関するもの)に二分されるようである。リピーターが多い講座だが、新規受講者の増加が課題である。

事業計画名	社会人のセカンドキャリア形成支援のためのプログラムの開講
活動指標	千葉市内の高等教育機関の「教育の魅力」を高める。
取組の概要	千葉市に在住・在勤の社会人の方向けの「学び直し」や「キャリアデザイン」を目的とした、社会人のキャリア形成に関する教育プログラムを、CPF各参画校共同で開講する。
進捗状況	社会人のセカンドキャリア形成支援のためのオンデマンド講座、「戦略経営・事業創発マネジメントスクール2024」を、2024年8月に開講した。前年度まで教育活動連携事業部会が運営していた事業の移管を受けるとともに、全10講座のうち2講座で講座内容の更新を行った。 2024年8月～2025年3月の受講申込件数は17件と、決して多いとは言えない。関係者からの発信だけでは露出に限界があることから、周知のしかたには課題が残った。
点検・評価	本講座はいかに市民のニーズに対応するかが課題と言えるが、業務移管を受けた初年度であったこともあり、十分な周知活動ができなかった。講座内容のアップデートをしながら、市民にわかりやすい周知方法を検討し、新規受講者を増加させることが求められる。

事業計画名	共同で企画する公開講座・生涯学習講座等の開催 千葉市民の自主的な学び促進事業
活動指標	「他世代の学び」の機会の提供 共同で企画する公開講座・生涯学習講座等を開催する。
取組の概要	(1) CPF参画校が独自に企画する講座等について、 ●参画校のプラットフォーム共催講座の設定を促進する ●参画校等から、各校の主催する講座に教職員の派遣を促進する。 これらの事業遂行のため、各参画校の講座担当者との連絡強化を図る。 (2) 千葉市内の公民館および生涯学習センターにおける千葉市民の自主的な学びを促進するため、千葉市教育委員会および千葉市教育振興財団と連携して、CPF参画校から人材

	の紹介・派遣(マッチング)を仲立ちする。
進捗状況	(1) 共同で企画する講座は、現在もなお実現していない。 (2) 講師マッチングの依頼は、今年度は受けた相談そのものが例年に比して少なかった。 なお(1)の事業については、プラットフォーム中長期計画の見直しが必要との意見が部会会議において話題になっている。(2)の事業は、公民館職員の担当者交代等に伴う再周知が必要である。
点検・評価	(1) 未達成 (2) 年間2講座のマッチングに留まった。

◆地域支援連携事業部会（幹事校:帝京平成大学）

事業計画名	千葉市内ボランティアイベントへの学生ボランティア参加
活動指標	地域の課題解決力の向上
取組の概要	PF大学間連携を通じた「千葉市内ボランティア活動」に取り組むことで、千葉市が抱える課題解決に貢献し「まちの魅力」を高める。 各大学で依頼を受けた千葉市内ボランティア活動をMLを活用して募集をする。その活動がPFに対し依頼があった活動または、PF複数の大学が相互乗り入れで共同参加した活動であれば、PFの実績として集約する。また、この情報共有を通じて実績とした千葉市内ボランティア活動を年間10回実施することを目標とする。
進捗状況	2024年度より地域支援部会が再開され、8件のボランティアに参加した。
点検・評価	前年度と比較し微減(前年度10件)である。中長期計画における目標との乖離については、今後部会で協議検討をしていく。

事業計画名	防災講話
活動指標	地域の課題解決力の向上
取組の概要	大学間連携を通じた「大学・短期大学の知」を市民へ提供し、「安心・安全な千葉市」としての「まちの魅力」を高める。年間5回の実施を達成する。
進捗状況	2024年度より地域支援部会が再開され、2件の防災講話が開催された。
点検・評価	前年度と比較し微増(前年度1件)である。中長期計画における目標との乖離については、今後部会で協議検討をしていく。

◆短期大学連携ワーキンググループ（幹事校：千葉経済大学・千葉経済大学短期大学部）

事業計画名	千葉市内に所在する短期大学が連携することで、産学官連携に関する協力体制、共通問題の認識や情報交換、産・官・4年制大学との連携強化を図る。
活動指標	所属4短大の連携強化、プラットフォーム事業への積極的参加
取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・プラットフォーム事業における短大としてのかかわり方、共通問題認識のための情報交換会の開催 ・短大在学生をプラットフォーム事業に参加促進する方策や協力体制の検討 ・各短大の特色を生かした支援の検討
進捗状況	<p>・プラットフォーム事業における短期大学としてのかかわり方、共通問題認識のための情報交換を目的として、以下の会議を実施した。</p> <p>第1回 2024年7月25日 15:00～16:10 オンライン(Zoom)形式による会議</p> <p>第2回 2024年9月24日 15:30～16:50 対面(於：千葉市役所3階L会議室305)</p> <p>・プラットフォーム事業(中長期計画に基づく5つの事業部会の活動等)を補完する取組として、「令和8年度採用・千葉市保育士就職説明会」を開催した。</p> <p>日時 2024年9月27日 15:00～16:00</p> <p>場所 参画各校の指定教室・学生自宅等(オンライン形式)</p> <p>内容 市担当者による説明と質疑応答</p>
点検・評価	<p>・これまではオンライン(Zoom)形式による会議、メール会議を中心に意見交換を行ってきたが、今年度は、第2回(9月)の会議を対面で実施することができた。</p> <p>・自治体、産業界等との連携を模索した。産業界との連携は実現できなかったが、9月からワーキンググループの構成員として千葉市政策調整課が参加することとなった。</p> <p>・「千葉市との共同の取組」として、公立保育所への就職促進を目的とした「令和8年度採用・千葉市保育士就職説明会」を実施した。</p> <p>→今後は、プラットフォーム事業における短大としてのかかわり方について、引き続き参画している短期大学・大学と千葉市での意見交換の場をワーキンググループ内で継続して行っていきたい。</p>

◆子ども子育て支援連携ワーキンググループ（幹事校：植草学園大学・植草学園短期大学）

事業計画名	子育て支援の連携強化
活動指標	参画校の子育て支援連携会議実施 年4回
取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・連携強化のための調査・研究、子育て支援の必要性の掘り起こし、及び必要な支援活動の形態を検討する。 ・ちば産学官連携プラットフォーム参画校の子育て支援の連携を図る。
進捗状況	2024年度は子育て支援連携会議を、6月・8月・11月・2月の計4回実施した。参画校における子育て支援状況を確認。子育て支援施設を置く学校、施設を置かなくても事業において子育て支援を実施する学校など、それぞれの良さを確認することができた。8月の定例会は植草学園大学・短期大学にて対面で実施し、併せて同キャンパス内の「子育て支援・教育実践センター こいっく・おぐ」を視察した。

点検・評価	<p>年4回の子育て支援連携会議（Zoom会議3回、対面会議1回開催）では、参画校それぞれの子育て支援実施状況報告から、相互に今後の改善へと繋げることができた。また各大学で抱えている課題や検討している内容等を参画校で共有することで、新たな方策へのヒントを得ることができた。</p>
-------	--

事業計画名	<p>子育て支援共同講座の開設・運営 「ちばこども子育てすぽっと」YouTubeチャンネルでの配信</p>
活動指標	<p>子育て講座の共同実施 年6回</p>
取組の概要	<p>子育て支援共同講座の開設・運営 「ちばこども子育てすぽっと」YouTube チャンネルでの配信 及び子育て支援施設利用者による視聴</p>
進捗状況	<p>計6本の講座を配信し、子育て支援施設の来所者にも視聴していただいた。</p> <p>① トイレトペーパーの芯をつかってミノムシをつくってみよう」（10月公開） 千葉明德短期大学 井上裕美子先生</p> <p>② サンタクロースのパクパク人形」（10月公開） 植草学園大学 實川慎子先生</p> <p>③ 0・1・2歳のころ どうして〇〇するの？（11月公開） 植草学園大学 北田沙也加先生</p> <p>④ どんな意味がある？ ごっこ遊び（2月公開） 千葉経済大学短期大学部 小倉定枝先生</p> <p>⑤ 「『こどもだれでも通園制度』と子育て」（2月公開） 植草学園短期大学 久留島太郎先生</p> <p>⑥ 「『寝る子は育つ』ってほんと？」（3月公開） 敬愛短期大学 齋藤めぐみ先生</p>
点検・評価	<p>YouTubeチャンネル「ちばこども子育てすぽっと」によるオンデマンドでの子育て講座は合計6講座開講し、子育て支援施設利用者による視聴も行った。</p> <p>また、千葉市の協力により、本チャンネルを市ホームページの「千葉市子育てナビ」及び同名の小冊子にも紹介記事を掲載していただき、市民への周知・広報につながったが、引き続き視聴者数のさらなる増加が課題である。</p>

◆デジタル人材ワーキンググループ（幹事校：東京情報大学）

事業計画名	大学及び地域(産官)におけるデジタル人材養成の課題と解決の模索 ～情報共有及び課題解決支援～
活動指標	「教育の魅力」の向上 千葉市が抱える課題解決に関わる
取組の概要	<p>高等教育機関及び地域(千葉市)におけるデジタル人材養成について参加機関間の意見交換、情報共有、課題解決のための事業を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●テーマ1 高等教育機関におけるデジタル人材育成 <ul style="list-style-type: none"> ① 高等教育に求められるデジタル人材・スキル ② 教育とITの現状と課題 ③ 学生サービスに求められるDX化 ～仕組みや管理と運営など～ ●テーマ2 地域(千葉市)におけるデジタル化 <ul style="list-style-type: none"> ① 千葉市におけるデジタル人材育成及び支援事業 ② まちづくり(スマートシティ構想)と大学連携事業 ●主な活動内容 <ul style="list-style-type: none"> ① 意見交換 ② 課題抽出 ③ 課題解決に必要となる研修会、講習会等の実施
進捗状況	デジタル人材WG主催の「ちばデジタル人材育成フォーラム2025」(仮称)の企画書を提案し、2025年7月～9月の間で打ち合わせを行う予定。
点検・評価	2024年度はメール会議による開催のみとなったが、千葉市のデジタル人材育成に寄与するためのフォーラムを企画することができた。今後は千葉市や各大学との連携を図りながら、企画しているフォーラムがより有意義なものとなるよう準備を進めていきたい。

◆プラットフォーム事務局（代表校：淑徳大学）

事業計画名	PFラボ(共同研究)の推進
活動指標	—
取組の概要	「PFラボ」(共同研究)に、100万円相当の共同研究費を設定する。
進捗状況	<p>2024年度は以下の2本の共同研究を実施した。</p> <p>調査結果は、ウェブ上(http://www.pf-chiba.org/projects/jointstudies/)に公開済。</p> <p>①「2024年度ちば産学官連携プラットフォーム共同調査研究」（幹事校）淑徳大学</p> <p>① 「千葉市における外国ルーツの学生の生活意識および教育問題に関する研究 ～日本人学生・留学生による教育支援ボランティア体制等を通じた多文化共生のまちづくりに向けて～（幹事校）神田外語大学</p>
点検・評価	<p>幹事校の淑徳大学と神田外語大学の尽力により、100万円を超える規模の共同研究を2つ実施できた点は非常に評価できる。淑徳大学は千葉市に必要な施策を検討するためにWEBアンケート調査を実施して、千葉市地域安全課や千葉市政策調整課と連携して必要なニーズ調査を行えた。神田外語大学も千葉市と協力のうえ、日本人学生・留学生による学習支援ボランティア体制や、外国にルーツを持つ学生同士が互いにサポートし合い、交流できる体制づくりに向けた研究がすすめられた。</p> <p>今後の課題としては予算の確保であり、2024年度は財政調整基金のストックから2本の共同研究を実施できたが、限られたプラットフォームの年会費で継続していくのは困難である。今後複数の研究を走らせることを目指すのか、その場合は会費の増額や外部資金の獲得も視野に入れる必要がある。</p>

事業計画名	事務局運営
活動指標	—
取組の概要	<p>ちば産学官連携プラットフォーム組織運営内規に基づき、プラットフォーム運営事務、中長期計画の作成及び進捗管理、予算案の作成、事業部会活動の調整等を実施する。</p> <p>プラットフォーム運営事務に係る経費として、総会、運営委員会の開催に係る旅費・消耗品、情報公開としてのホームページ掲載費、各事業部会の経費精算等の事務を処理するための派遣業務委託費を計上する。</p>
進捗状況	事業計画通り、プラットフォーム運営に係る事務業務を遂行した。
点検・評価	<p>事業計画通り、事務局業務を遂行できている点は評価できる。来年度は会長校の交代や事務局の派遣スタッフを雇用しなくなる点等、体制が大きく変わる年となる。参画校で業務分担を行い、負担を偏らせない持続可能な事務局体制を構築する必要がある。</p>

以上